

③ 洋光台男声合唱団

中野堅五

一——はじめに

洋光台男声合唱団（以下「洋男」と略称）は昭和六十年十一月に誕生し、今年でちょうど四年目を迎えました。現在団員数四十七人、平均年齢五十歳、毎日曜日の午後六時半から午後九時まで、洋光台の駅前にある横浜こども科学館集会所において、毎回約四十人前後の団員が合唱を楽しんでおります。日曜日の夜といえは、家庭では一週間のうちトップのゴールデンタイム、明日への活力源のアルコールに浸りつつ、良きお父さん振りを発揮されているひとときでしょう。NHKの大河ドラマも見られる機会が無くなり、こういう点から考えますと誠に残念な日曜日ということになります。

ところが出席率からもいえるように、団員一同日曜日の夜は自然と練習場に足が向いているのです。単に合唱が好きということだけではない、ハーモニーの喜びを超えた、計り知れない

何かがあるように思えるのです。

二——発足の経過

昭和六十年五月六日、洋光台連合自治町内会及び洋光台文化を創る会が主催して「洋光台音楽の集い」が開催されました。地域活性化の一環として先に洋光台のシンボルマークが公募されていましたが、今回の催しは、町歌の発表会を兼ねて洋光台地域の四校の小学校と二校の中学校のPTAコーラス、少年少女合唱団、地域の女声コーラスグループも参加した音楽祭です。当地には文化を推進する母体である「洋光台文化を創る会」というユニークな組織がありますが、今回の音楽の集いが、町歌の発表会に終わることなく、毎年続けてやっていこう、そして女声コーラスだけではなく、男声コーラスも是非参加して欲しいという願いにも似た機運がありました。しかし職場や学校と異なると地

- 一——はじめに
- 二——発足の経過
- 三——発団式
- 四——活動の記録
- 五——組織づくり
- 六——第一回発表会
- 七——交流会
- 八——機関紙のこと
- 九——プロフィール集作成
- 十——喜び、楽しみの原点

域において多忙な社会人がコーラスに参加するのはとても考えられないことです。

その年の秋、主演中井貴一による市川崑監督の映画「ピルマの堅琴」が全国で放映されました。私はこの映画の感動を思い出し、早速映画館にかけつけました。およそ殺伐とした戦争映画とは思えない全編ヒューマニズムに溢れる映画で、相次ぐ感動的なシーンの中でも、満月の夜、日本軍、英国軍が銃を握りしめながら歌った「埴生の宿」の男声合唱のシーンは心がゆさぶられ涙が溢れました。「歌」というものは、殺し合いの最中であっても、心のかげ橋になり得ることをこの映画で教えられました。帰る道すがら、第二回洋光台音楽の集いには、なんとかして男声を集いの壇上に上げさせなければという「想い」は益々昇華して、翌日佐野弘洋光台連合自治町内会長に相談すると、二つ返事で「やりましょう」と言っていたきました。十月の終わりの日曜日、佐野会長、宮川昭夫（文

ころが開催時刻になると、思ってもみない人数が集まりました。年齢は四、五十歳代の方が多く、最高年齢者は五丁目の鶴飼孝一さんで八十二歳とのこと（一年間合唱を楽しまれていましたが、御病気で亡くなられました）、合計で二十三人の方が集まりました。ともかく一緒に歌いましょうという事で「植生の宿」「船のり」の二部合唱の練習を始めました。全く知らない人達の集まりでしたが、歌う心は一つです。ふくいくとかもし出すハーモニーは心地よく響き渡り、会場の外に居た二、三人の人達も思わず入室してきました。一同の顔に自然な笑みがこぼれ「ああ来て良かった」と共感して、自然に次回以降の練習予定も決まり、再会を約して散会致しました。私達発起人は、「やっぱりやって良かったね」と実感致しました。実際こんなに人数が集まるとは思ってもみなかったのです。募集には、掲示板はもとより、機会があれば呼びかけも積極的に進めましたが、何よりも広く伝わったのは、地域コミュニティ紙「はまかぜ」の素晴らしい記事によるものでした。港南台に住まわれている尾崎みつ子さんには大変感謝致しております。

四——活動の記録

男声合唱団が誕生した事で多方面から出演の依頼がありました。いまだ力不足でしたが、男の趣旨、積極的な団員募集のこともあり、出演を受けることに致しました。せめて出演の折には、ネクタイだけでも統一しようということになり、二本八百円也の赤いネクタイを購入し、楽譜、ホルダーも製作、当面の外部出演に対応出来るように致しました。昭和六十一年三月二十一日、洋光台中央ライオンズクラブ結成二周年記念式典、同年五月三日、待望の洋光台音楽の集いから、白いYシャツに揃いの赤いネクタイでさわやかなスタートを致しました。

①—初年度の主な活動記録

- 三月二十二日 洋光台中央ライオンズクラブ 記念大会
- 五月三日 洋光台音楽の集い
- 五月二十五日 ヌオーヴァ女声合唱団との合同ハイキング
- 六月十六日 ライオンズクラブR大会
- 八月二十三日 ライオンズクラブ家族例会
- 十月二十六日 磯子祭り音楽の集い
- 十一月八日 洋光台第二中学校創立十周年記念式典
- 十一月三十日 横須賀衣笠養護老人ホーム 慰問

②—二年目の主な活動記録

- 十二月二十八日 団総会
- 二月八日 横浜コーラルフェスト
- 四月二十九日 磯子特別養護老人ホーム慰問
- 五月十七日 港南区音楽祭
- 五月三十日 洋光台音楽の集い
- 六月二十八日 バーズ・サンデーコンサート
- 八月三十日 コールレインボー演奏会
- 十月六日 日本商店連盟全国大会
- 十月二十五日 磯子祭り音楽の集い
- 十一月十五日 野庭苑特別養護老人ホーム 慰問

③—三年目の主な活動記録

- 十二月二十日 港南台クリスマスキャロル
- 一月三十一日 上中里センターまつり
- 五月十五日 港南区音楽祭
- 五月二十一日 洋光台音楽の集い
- 七月二十四日 野庭苑特別養護老人ホーム 慰問
- 八月二十八日 コールレインボー演奏会
- 九月二十三日 第一発表会
- 十月三十日 ウイラブ アジア
- 十一月二十日 チャリティーコンサート 母子連 県大会

貢献する。

第五条 団員各自は、よき社会人としての誇りを持ち、より高い音楽性をもとめて、常に自己研鑽に努める。

このように崇高なものです。私たち団員はいつもこの理念に従って団活動をしていく所存であります。

また洋男には賛助団員制度というものがあります。規約第十七条に、本来合唱活動に参加出来ない者であっても、本団の理念に賛同する者は賛助団員となることが出来るとあり、より地域に密着した合唱団を目指しております。現在四十数人の方々から応援していただいておりますが、今後は横浜市外そして県内全域にも輪を広げていきたいと願っております。

六——第一回発表会

洋男の発足以来三年、一つの節目として発表会を開催することになりました。なにしろ洋男は専門家は皆無で、ボイストレーナーをお願いしている中村博之先生のみがプロで、かつて学生時代合唱をやっていた者、合唱がメシより好きな者、カラオケ出身者を含めて様々な団員の集合体です。それゆえ年齢的にも本来の合唱団の発表会のようにはとて参りません。賛助団

員と家族を中心とした「手づくりのファミリーコンサート」と銘打ってがんばろうということになりました。練習にも力が入り、歌も心もハーモニーを合い言葉にその成果は実っていきました。

発表会の直前の九月三日、四日に山梨県八ヶ岳高原泉郷に強化合宿を計画しました。中村先生の指導のもとに重点的な練習をしようというものです。参加人員三十四人、食事担当からすべて役割を分担して、バスにて出発です。歌の練習は各人ごとの練習からパートにおよび、全員延十時間の特訓の練習をしました。その成果は着実に上り、強化合宿は大成功でした。それにしても心ふれあう仲間との一泊旅行です。楽しくない筈はありません。就寝時間になっても青春時代に帰ったメロデーは、「よくこんな知っているなあ」と驚嘆の声が上がる程、尽きることがありません。

ともかく食事の準備から特訓の練習まで、すべて良さ思っただけを残し、また来年「ここで歌おう！」と約束をして帰路についたのでした。発表会当日の九月二十三日はあいにく雨でしたが、前夜から徹夜で作った舞台装置を団員の運転するトラックで搬入したり、早朝から団員各自準備にかかり、なんとか昼の練習時間までに終了出来ました。

写真-3 洋光台男声合唱団の第1回発表会、根岸、薬業会館ホール
(昭和63年9月23日)



団員の家族、交流している女声合唱団の方々にも裏方の仕事をお願いして、午後二時三十分開幕のベルが鳴りました。雨天にもかかわらず定員三百人のホールは満員、補助椅子を出すまでの盛況となりました。当日のプログラムは表1-1の通りです。

当日のアンケートには九十二人の方々から、技術的なアドバイス、曲名、運営と雰囲気について励ましのお言葉をいただきました。その中

出来る事は、なんと幸せなことでしょうか。私達は味わい深い人生の渦中にいることを実感しています。私達の歌ってきた愛唱歌も数が増えています。男声合唱の特色として伴奏がなくても△赤ペラ▽で歌えます。どんな場所

もパートが揃えば、しびれるようなハーモニーが出せる、思っただけでも素晴らしいですね。夢は大きく団員数も百人は欲しいと思っております。そうなれば地域の方々と色々の機会により交流の輪を広げていけることでしょう。今後

も「心のかけ橋合唱団」として一味も二味も違った味わい深い合唱団として成長していきたいと念願しております。

△洋光台男声合唱団団長▽